

12月21日（日）クリスマス礼拝レジュメ

「飼い葉おけに寝かされた理由」 ルカの福音書2章8～20節

イエスキリストがこの世に誕生されたころ、羊飼いはユダヤ人社会において非常にさげすまれた人たちだった。

しかし神様は、このような羊飼いたちに天使を遣わし、救い主イエスキリストの誕生を知らせた。それは、人間の側で汚れているとのレッテルを貼られ、自分は神からの祝福を受けることができないとか、自分は神とは関係ないと思っている人ほど神が近くにいるとくださるということを意味している。そして、そのような人にこそ神は、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」と言われる。

神の目から見れば、すべての人が罪人。罪とは神に従わず、神を離れ、自分を神とし、自分で人生を支配し、自分で人生を支配できると思い込み、善悪は自分で決めると思っていること。罪の中を人は自己中心に生き、自分を満足させ、自分の利益を追い求め、自分の欲を満足させるために生きている。そこにさまざまな問題が起こっているのを私たちは見えています。人は、どうすることもできない人生の問題で多くの人が悩み苦しみ、孤独感をかかえているが、そのような者たちを救うために救い主が生まれ、すべての人が罪ある状態で神によって愛されている。

さらに御使いは、救い主の誕生を告げると同時に、「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたのためのしるしです。」（12節）と言った。これは、羊飼いに対する配慮と言える。ユダヤ社会において徹底的にさげすまれていた羊飼いたちが入れる場所は家畜小屋だった。この羊飼いが救い主であるイエス様と出会うためにキ

リストは飼葉桶に寝かされた。もっと言えば、キリストは羊飼いのために、何人かの羊飼いのために、人々からさげすまれていた羊飼いと出会うためにあえて飼葉桶に寝かされる道を選び取ってくださった。それと同様に、キリストは罪人である私たちと出会うために、人となってこの地上に来てくださった。人と人の欲望がうずまき、多くの混乱や争い、悲しみ、心の痛み、叫びに満ちているこの世にキリストは来られた。それは愛のゆえであった。

そして救い主に出会うことのすばらしさは、その人が変えられるということ。羊飼いたちは、人々にこの幼子について知らせた。(17節)その後、彼らは自分たちが今までどおりしていた羊飼いの仕事に帰って行った。しかし彼らは神をあがめる者、神を賛美する者へと変えられた。状況は何も変わらない。つらい立場は何も変わらない。羊飼いの周りが変わるのでもない。救い主に出会って、彼ら自身が変わった。私たちもキリストにあって神に従い、神のみこころに生き、神と人とを愛する生き方に変えられる。

羊飼いは15節「さあベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」16節「マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。」20節「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」ぜひ皆さんもこの羊飼いと 同じ経験をしていただきたい。救い主を捜し求めることにより、ぜひ救い主に出会っていただきたい。